

令和8年度第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 令和8年8月7日（金）10:00～11:40

2 場 所 福知山公立大学4号館4階会議室

3 出席者

委員	（リモート参加）青山委員長、大久保職務代理 （会場参加）菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	伊藤室長、西舩課長、塩見係長、四方主事、吉田職員
福知山公立 大学	川添学長、西田副学長、倉田副学長、辻事務局長、大江課長、今田課長補佐

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 令和7年度及び中期目標期間 （4年終了時）に係る公立大 学法人福知山公立大学の業務 実績に関する評価結果につい て	評価委員会での意見交換。最終評価の決定。
2	【報告】 公立大学法人福知山公立大学 財務諸表承認及び剰余金の使 途について	事務局から【資料4】により財務諸表の承認及び 剰余金の使途における今後の取扱いの説明。
3	【その他】 公立大学法人への報告と学長 からの意見	評価結果について、評価委員長から学長へ報告。

5 会議内容

議題 令和7年度及び中期目標期間（4年終了時）に係る公立大学法人福知山公立大学の業務実績に関する評価結果について

【法人未入室で協議】

（委員）

- 令和7年度及び中期目標期間（4年終了時）に係る公立大学法人福知山公立大学の業務実績に関する評価について、我々評価委員会で実施した評価に対して、公立大学法人福知山公立大学から意見はなかった。改めて、評価委員の皆様の評価についての意見、質問等があれば伺いたい。

（委員一同）

- 意見無し

(委員)

- 意見がなければ、今年度の評価の感想等でも良いので、率直な意見をいただきたい。

(委員)

- 開学から10年、準備期間も含めると12, 3年経ち、公立化される前と今の状況とを比べると雲泥の差があり、市民として誇らしく思う。
- 評価委員会に関わらせていただいているため、毎年の大学の取組み等が分かり、素晴らしいと感じている。一方で、それらを市民がどれだけ知っているかということを考えると、まだまだ課題があると思う。両丹日日新聞（福知山市の地元紙）に掲載されるような地域と大学との交流や、研究の姿以上のものはほとんどの市民が知らないのではないか。報告会等もされているため、知ろうとすれば知ることができる情報ではあるが、まだ知ろうとしていない市民が多く、今後どのように市民の意識向上を図っていくかが課題だと感じている。

(委員)

- 大学のマスコミへの情報提供はしっかりされていると思う。両丹日日新聞には本当によく大学の記事が掲載されている。Yahoo ニュースなどにも配信されており、市のSNS、大学の SNS でも発信されるなど、見ようと思えばたくさんの情報が出てくる。同じように綾部市や舞鶴市など、周辺市町村でも広報活動を継続していただき、地元からの入学者を一定確保できるように今後さらに進めてほしい。

(委員)

- 公立大学に変わり10年経ち、全国から福知山市に学生が来ているという点について、やはりまちづくりの面においてインパクトがあると思う。
- 大学が様々な取組みをされているということは分かるが、市民目線で見たときの実感としては少し分かりにくいところがあると思う。全国から集まる学生の住む学生寮を1つの地区に作れば、学生の住む地域のまちづくりは劇的に変わる可能性がある。例えば、広小路に学生寮を作れば商店街やお店等の賑わいにも大きな変化が現れるだろう。これは高校生の学生寮でも同じことが言えると思う。市の方針も含めて少しもったいなく思う。
- 勉学の評価についてはやはり専門性が増すため少しわかりにくく、例年以上に評価が難しいという印象を持った。

(委員)

- 「市街地に学生寮を作る」という提案は、ぜひ後ほど法人の前でもご指導いただきたいと思う。

(委員)

- 開学準備の段階から申し上げてきたが、「地元からどれだけ愛されるか」をやはり重視してもらいたい。指標として、法人が掲げている「地元からの進学率2割」が達成できなければ当然評価は下がるべきだし、ここを捨てたら大学の存続はありえないと思っている。
- 2学部1研究科体制、1,000名規模の立派な大学になっていることは事実で、法人の努力の賜物であると思う。
- 一方で、大学があることの意味、意義が市民感覚として伝わっていないということは、時間のかかることではあるが、しっかり課題認識しておかなければならない。2040年

に向かって18歳人口が減っていくことを受けて、文科省は「弱い大学は淘汰せよ」と方針を示そうとしている。淘汰される大学になるわけにはいかないということを考えると、やはり「地域からどれだけ愛されるか」が重要である。「地域」を大事にする大学であるべきだと思うし、留学生や日本国中からの学生の確保とバランスのとれた大学運営が今後の目標設定に反映されることを期待する。

- 中学高校の進路指導の段階から、進路選択の自由を奪わない範囲内で、地域の大学をつぶさないための機運が必要である。他委員がおっしゃった「地元の高校生の確保と連携する」というアイデアは、行政側としても取り組みやすいのではないかと思った。

(委員)

- 地域の大学ということを標榜して活動していくべきだと思うが、少子化の波にどう対応していくか、市民としてどう考えていくか、課題であると思う。
- 他委員がおっしゃったように、周辺市町村へのアプローチは非常に重要である。「あれは福知山の大学だから」と思われたいような方向性を考えていかなければならないと思う。
- 委員の皆さんに意見をいただいたが、業務実績評価については、原案通りで確定することで良いか。

(委員一同)

- 異議なし。

報告 公立大学法人福知山公立大学財務諸表の承認及び剰余金について

(事務局)

- 資料4のとおり、財務諸表については適正に処理をされていることを確認したため承認することとする。
- 剰余金について、業務実績評価書の全体評価結果がAとなり、業務を行っていないと判断されるC判定とならなかったため、剰余金の使途について内容を精査し、今後、福知山市で目的積立金として認めるかどうかの判断を行う。

【法人入室後】

(法人)

- 例年にも増した長文の評価書を綿密に検討していただき、結果的に自己評価に沿った形で評価いただいたことに感謝する。
- 委員の皆さんのご苦勞に感謝するとともに、有益な御助言も頂戴できるようなので、是非とも生かしていきたい。

(委員)

- 今回、業務実績評価を行った委員の皆さまからコメントをお願いしたい。

(委員)

- 評価については、法人評価と評価委員会の評価のズレがなく、非常に円滑に進んだ。
- 法人側で唯一「2」と評価をつけたところについて、評価委員全員が同じ認識で「2」とさせていただいた。大学法人が、努力されているのは分かるが、それが市民レベルま

で浸透し、地域に愛される大学になるためにということで、一番誇るべきところである地域連携をさらに進めていただくということを期待して「2」をつけているので、適切な目標設定をして、それを追いかけてほしい。

- 総務省と一般社団法人公立大学協会による公立大学のあり方の検討委員会があり、運営費交付金のあり方、研究環境の保持整備、それから関連してURA（リサーチ・アドミニストレーター）の確保などが議論され、今後何らかの答申があると思うが、各大学においてはそれを待っているわけにはいかない。外部資金を積極的に取りに行くというようなことを、文系理系問わず、少しインセンティブをつけて目標設定をするということにも取り組んでいる。
- また、研究科を持たれているので、研究も非常に大事だと思う。学生のためには先生方が研究を進める、深めるということも、プレゼンスの維持向上のために必要だと思うので、ご留意いただけたらと思う。
- 未来永劫残る福知山公立大学であることを心から願う。

（委員）

- 毎年の年度評価は「4」だが、中期計画の中間評価としては「3」である項目がいくつかあったことが気になった。1年1年を見ると素晴らしい計画と実績があるが、俯瞰的に6年間の中期目標・中期計画を達成するための工程として見たときに少し違和感のある項目もあったため、6年目に向かって計画を立てていくなかで一層意識してほしい。
- 志願者確保について、自分自身がもし大学を選ぶとしたら、
 - ・オープンキャンパスで知ることのできる大学の状況やまちの状況がどうか
 - ・自分のキャリアプランに役立つ学びができるか
 - ・卒業するときに就職先としてどんな企業と接続しているかなどを判断基準として考えると思う。その際に、まち全体が大学および大学生を歓迎している雰囲気というのは非常に重要だと感じた。「大学があるからぜひ福知山市に来てほしい」というような機運の醸成がまちとして必要なのではないか。
- また、大学がPRする際も、卒業生の活躍についてはすでに紹介されているが、もっと詳しい内容が書かれているバージョンもあるといいのではないかな。

（委員）

- 中期計画のうち4年が終了し、大学院の設置や教職課程の開始、また両学部を横断する基盤教育院の設置などを計画され、それらが順調に進んでいるという点を評価したい。
- 教育面については専門外なこともあり、なかなか理解できない部分もあるため、順調に進んでいることを踏まえ、大学の自己評価に準じて評価を行った。
- 受験倍率や志願者数については、他の委員のおっしゃる通りであり、福知山に限らず北近畿地域からの入学者を一定確保しなければならないと思うため、今後も努力していただきたい。
- やはり「地域から大学に進学し、この地域で勉強し、地域に残る」という流れがあってこそ福知山公立大学だと思う。今後も地域の大学として残ってほしい。
- 私どもも地域社会で学校を支える、福知山市を支えるという気持ちでおらなければいけないと思っており、そういう視点でこれからも大学に関わっていきたい。
- 学食が好きでよく訪れるが、お昼に行くと学生が本当に多く、利用することも気が引け

るぐらいである。学校内の施設の拡充は非常に重要だと思う。ヤマザキのコンビニができ、パンや軽食が購入できるようになっているが、今後も施設を充実させて、学生生活の充実を図ってほしい。

(委員)

- 開学からの10年を振り返ると、この少子化の中で地方の大学を立ち上げ、全国から学生を集めてきており、市民レベルでも「よく頑張っている」という評価はやはりあると思う。
- 一方で、大学の評価が一定ある分「地域に対して大学がどのように関わってくれるか」という期待もあり、市民レベルでは大学があることで地域にどんな変化があったかという部分がまだ見えにくい。
- 福知山公立大学を卒業して地元就職する学生が増えてほしい。地元企業の社員と学生の交流会を開催するなど、企業と学生のつながりができると就職にもつながるのではないかと期待する。

(委員)

- 他の委員の意見を伺い、まだまだ市民の方々に「福知山公立大学は自分たちの大学だ」と思ってもらえていないのではないかと感じた。市民の皆さんに福知山公立大学のことを知っていただくための努力は重要だと思う。
- 少子化を乗り越えるために、地域の企業との連携は今後非常に重要になってくるため、企業との連携体制の構築に努めていただきたい。その中で、北近畿地域連携機構の取り組みは注目されるべきものがたくさんあると思うが、その流れをもっと広げていただきたい。地域の産業にいろんな意味で寄与していくことが重要だと考える。
- 少子化が進む中で、社会人の学び直しの機会をもっと増やすことは非常に重要である。単に生涯学習の一環で講義を聞くのではなく、学び直しの一環として事業あるいは資格を取るようなことも含めて、企業の職員の方々とうまく取り組んでいくことが今後必要ではないかと考える。
- 近年、中教審が大胆な改革を検討し始めており、2030年には大学全体の評価から学部別の評価に変えるなど、大学評価の方法を大きく刷新することを発表している。また、大学評価に学生の意見やアウトカム、学修成果を重要視する動きもある。そのため、中教審の方針や学生の意見を取り入れた形で次の10年を頑張りたい。
- 全国に卒業生が散らばっているということは、全国にネットワークがあるということであり、非常に重要な意義があると思う。そういう人たちと福知山とのネットワークをうまく維持するような仕掛けを作っても良いのではないかと。ボストン商工会議所の報告書を見ていると、世界中に散らばっている優秀な人たちを散らばったままにせず、ボストンに寄与してもらうためのネットワークを構築するような仕掛けができないかという提言があった。福知山でもそういったネットワークが全国的にあるいは世界的にも機能してくれたら良いと思う。